

【米の販売動向調査の追加調査結果】

- 令和4年7月～5年1月の販売動向について調査した結果、前年の同期間に比べ**1.3%増加**。また、令和4年産米の相対取引価格は令和3年産米に比して上昇（+1,104円/60kg、税込）。
- この結果を基に、10月の基本指針と同様の手法で令和4/5年の需要量の増減を算出すると**販売動向により約8万トンの増加、価格変動により約2万トンの減少**が見込まれる。
- これらについて、トレンド等から算出した需要量から加減すると「691～697万トン」となり、10月に設定した**需要見通しの「691～697万トン」と同水準となることから、令和4/5年の需要見通しの変更は行わない**こととする。

【10月の基本指針における令和4/5年の需要量の見通し】

- ・ 令和4年7月～9月の米の販売動向調査結果（9月は見込値）によると、この期間の**販売量は前年の同期間に比べ1.6%増加**。

- 令和4年7月～9月の販売動向調査結果

（単位：千トン）

	令和3年 7月～9月 ①	令和4年 7月～9月 ②	増減量 ②-①	増減率 ②/①-1
販売量	975	991	16	+1.6%

- ・ 令和3/4年の市場流通見込み（578万トン）における販売量が1.6%増加すると仮定すると**需要量は約9万トンの増加**が見込まれる。
- ・ 令和4年産米の相対取引価格が令和3年産米に比して上昇（+1,142円/60kg）しており、**価格変動に伴う需要量の変動を推計すると約3万トンの減少**が見込まれる。
- ・ 令和4/5年主食用米等需要量の見通しは、トレンド等から算出した需要量691万トンから、販売動向調査による需要増加量の約9万トンを加えて価格変動に伴う需要減少量の約3万トンを除いた697万トンと幅をもって

「691～697万トン」と設定。

【米の販売動向調査の追加調査結果】

- ・ 米の販売動向調査について、令和4年9月～5年1月を追加調査したところ、令和4年7月～5年1月の販売量は**前年の同期間に比べ1.3%増加**。

- 令和4年7月～5年1月の販売動向調査結果

（単位：千トン）

	令和3年7月 ～4年1月 ①	令和4年7月 ～5年1月 ②	増減量 ②-①	増減率 ②/①-1
販売量	2,239	2,269	29	+1.3%

- ・ 10月の基本指針と同様の手法で需要量を算出すると**販売動向により約8万トンの増加**が見込まれる。
- ・ また、**価格変動（+1,104円/60kg）により約2万トンの減少**（※）が見込まれる。
- ・ この増減分を単純にトレンド等から算出した**需要見通しに加減して令和4/5年の主食用米等需要量の見通しを設定すると、**

「691～697万トン」。

（※）2月以降の価格変動に伴う需要量の変動を推計。

○ 令和4/5年の主食用米等の需給見通し

（単位：万トン）

令和4年6月末民間在庫量	E	218
令和4年産主食用米等生産量	F	670
令和4/5年主食用米等供給量計	G=E+F	888
令和4/5年主食用米等需要量	H	691～697
令和5年6月末民間在庫量	I=G-H	191～197

注：主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向、コロナ影響緩和特別対策（特別枠）の販売動向等によって、今後、変動する可能性がある。

令和4/5年の需要見通しは、販売動向の追加調査結果から、昨年10月に米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針において定めた「691～697万トン」と同水準になることから、**変更は行わない**。

【概念図】

- 米の販売動向調査対象者
：年間取扱数量4,000トン以上の卸売業者232社
- 調査対象者の年間取扱数量
：令和3/4年：388万トン

生産量：701万トン
市場流通量 578万トン
農家消費等 123万トン